

高麗の里

4月26日（火） くもり

- ★ 全国的に雨の予報が出ていて、所により大雨になるということであるが、関東地方だけは曇りの予報である。予報の通り一日中曇りで、時々薄日も射すという天気であったが、湿度が高くて歩くと汗ばむ陽気であった。
- ★ 田無駅に集まったのは5名、10時3分発の電車で拝島に行き、八高線に乗り換えて高麗川駅に着いたのはちょうど11時であった。東飯能駅で水野夫妻が合流して、参加者は7名となった。高麗川駅で下車する人は殆どなく、駅前のロータリーも閑散としている。八高線に並行している県道30号・飯能寄居線を北に向かって歩く。広い道であるが交通量は少ないし、歩道も広いので歩きやすい。600mほど歩いて板仏という交差点を左折すると広い畑中の道となる。県道のバイパスともくせい通りを越えて行くと四ツ辻の一面に石碑が立っている。これは江戸時代の天明の飢饉のとき、箕輪山靈巖寺の第16世住職の法印行盛が即身成仏の修業をし、入定した場所を示す塚であるという。入定塚の奥に箕輪山靈巖寺がある。武蔵野三十三観音の番外の札所である。山門とか庫裏などのようなものはなく、空き地にポツンと本堂だけ立っている。



高麗川駅前ロータリー



入定塚 寛政の即身仏



靈巖寺本堂

- ★ 靈巖寺と高麗神社は高麗川を挟んで向かい合っているが、高麗川を渡る橋はかなり離れた所にあるので大回りをしなければならない。ガイドマップでは新堀橋を渡るようになっているが、その橋は台風で壊されて渡れないという。お寺の人にもくせい通りへ戻り、右折して出世橋で高麗川を渡る道を教えて貰って無事に高麗神社へ行くことができた。高句麗から渡来した若光が大和朝廷の官人となり、朝廷が武蔵国に高麗郡を創設したとき、長官に任命され、この地を統治した。高麗神社はその若光を祀る神社である。まず目に入ってくるのは「天下大將軍」「地下女將軍」と書かれた大きな石像である。特にその異様な形相が印象的である。これは將軍標（チャンスン）といい、花崗岩でできているという。西武線・高麗駅の前にも同じようなものが立っているが、迫力は大違いである。將軍標の左奥に二の鳥居があって参道が続き、階段を登ると本殿と参集殿がある。参集殿の前庭に樹齢300年という彼岸桜があって、御神木となっている。花は終わっていたが、若葉の彼岸桜もいいものである。前庭の一面に神楽殿があって、高句麗の人たちの着ていた色鮮やかな衣装が復元・展示されていた。彼岸桜を見ながら持参のお弁当を食べた。食事の後、参集殿の裏にある高麗家住宅を見学した。代々高麗神社の神職を勤めてきた高麗家の住宅で、慶長年間（1596～1615）に建てられたものという。国指定重要文化財で、非常によ

く手入れされている。



将軍標 (チャンスン)



高麗家住宅



高句麗の衣装

★ 高麗神社から 10 分足らずで高麗山聖天院に着く。真言宗智山派の寺で、武蔵野三十三観音霊場の 26 番札所である。池に架かる石橋を渡ると雷門（風神雷神門）で、浅草の雷門と同様に大きな赤い提灯が懸けてある。雷門の右手に高麗王若光のお墓がある。雷門を抜けて石段を 30 段程登ると中門があって、これを潜ると目の前に見事な庭園が広がっている。白い砂利を敷き詰めた庭には池があり、山の斜面には木々が植栽されている。ツツジが咲き始めていた。中門の左手に阿弥陀堂があり、その横から山の斜面を登る石段がある。100 段ほどの石段を登ると本堂や鐘楼があり、見はらし台と称する休憩所がある。ここからは眼下に高麗川や長閑な田園風景を眺めることが出来る。2000 年（平成 12 年）に裏山山腹に 7 年の歳月をかけて総檜造りの新本堂が完成し、旧本堂の跡地に中門、阿弥陀堂、庭園などを整備したという。この鄙びた高麗の里にこれほど壮麗なお寺があるとはちょっと想像できなかった。



雷 門



中門への石段



庭 園



本 堂



御霊塔



本堂の前庭より中門、庭園を見る

★ 聖天院前のカワセミ街道を 500m ほど歩き、左の林の中の小径を下りると高麗川に架かる高岡橋がある。橋を渡って 200m ほど行った左手に武蔵野三十三観音霊場の 27 番札所の勝音寺があるが留守であった。高岡橋のすぐ近くに「高麗川遊歩道」という案内ポストが立っていたので、これに従って静かな高麗の里をのんびりと歩く。やがて県道川越・日高線を横断し、高麗小学校の手前の小径を入ると高麗郷民俗資料館があり、その前の「あいあい橋」を渡ると巾着田である。高麗川が大きく蛇行して、ちょうど巾着のような形になった所で、巾着田曼珠沙華公園やグランドや原っぱがある。秋には約 500 万本の彼岸花（曼珠沙華）が咲き、30 万人以上の観光客が訪れるという。菜の花、アジサイ、コスモスなど四季を通していろいろな花が咲き、年間 60 万人が訪れるという。この時期は比較的花が少なく、訪れる人も少ないようである。

巾着田の向こうに日和田山が見えている。巾着田から 10 分ほど歩いて西武線の高麗駅に着いたのは 3 時半頃であった。高麗駅の次の東飯能駅に来ると本降りの雨になっていた。



あいいい橋を渡って巾着田へ



巾着田と日和田山

- ★ 日和田山の麓に広がる高麗の里は静かで落ち着いた住みやすい所のようにである。高い建物はなく空が広いし、川や野原や林の中に住宅が点在している。比較的新しい住宅も多く、広い庭にはよく手入れされた樹木や花が植えられている。この時期は新緑が美しく、ツツジ、菜の花、ボタン、シャクナゲ、スマレのほか名も知らない花々が咲き乱れている。久しぶりに河鹿の鳴き声も聞いたし、オハグロトンボやアゲハチョウも見ることが出来た。



ツツジの大木 (もくせい通りで)



オオテマリの木 (高麗川遊歩道で)



オオテマリの花

俳句を頂きました。

行く春の 色とりどりの 高麗の里
庭の隅 なにごともなく 牡丹かな
千年の 神社ことしも 青葉若葉

桑田青三

帰化人の 古き住まひや 春惜しむ
咲き揃ふ 庭に躑躅の 古刹かな

辻 邦彩



写真と文 小島恕雄

参加者 桑田制三、小島恕雄夫妻、辻 直邦、原田一彦、水野 聡夫妻 以上 7 名